

2014年1月6日



2014年 社長年頭所感

1月6日（月）年初にあたり、日本特殊陶業株式会社（本社：名古屋市瑞穂区）では、社長 尾堂真一から社員に対して「年頭所感」を伝達しました。内容は下記のとおりです。

皆様におかれましては、心新たに良いお年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

現在当社では長期経営計画【日特進化論】の第2フェーズである、第6次中期経営計画「新化」の3年を推進中です。「新化」の3年において、当社は新しく生まれ変わるため、これまでになかった規模とスピードで変化していかなければなりません。これは環境が大きく変化しているからです。

一方では、事業環境の枠組みや技術的な動向も含め、変化のあるところには必ずチャンスがあるといっても過言ではありません。こういう時こそリスクを恐れず果敢にチャレンジしていこうではありませんか。

取り組みの過程において、大きなリスクを感じることもありますが、決して変わる事を恐れず進んでいただきたいと思います。前に進めば大きな傷を負い、痛みを伴うことがあります。しかし、痛みを恐れ前に進まないことの方が後々もっと大きなリスクとなって降りかかってくる事を忘れてはなりません。

【日特進化論】は2010年に、10年後の当社のあるべき姿である、●ものづくり企業、●高収益率企業、●発展的企業、●人“財”企業であること、を掲げてスタートしました。今年はその目標に対して折り返しの年度を迎えることとなります。「まだ半分」、と捉えるのか、「もう半分」、と捉えるのかで、今後の進み方も自ずと定まってきます。

新しく生まれ変わるための歩みを決して緩めてはなりません。時代の変化は待つてはくれません。常にスピード感を意識して、この先の輝かしい未来を先導する実りある一年となるよう、全社一丸となって邁進していきましょう。

以上